

神恵内村人口ビジョン・総合戦略

❖ 住民間交流・多世代間交流の拠点づくり

本村には、いつでも誰でも集まれる交流の場がない状況にあることから、本村の誇りの一つでもある「村民の持つ人に温かい」という気風を代々受け継いでいくためにも、老若男女がいつでも楽しく心豊かに交流・団らんできる拠点づくりに取り組みます。

- 多世代間交流による伝統と文化を育む場づくり
- 神恵内応援団の創設
- 域学連携による地域活性化



❖ クラインガルテンの開設

本村の自然豊かな環境の中で、スローライフを満喫してもらうとともに、交流人口の拡大に向け、遊休農地を有効活用したクラインガルテン(ドイツをはじめとしたヨーロッパで発展した家屋付き市民農園のこと)の開設を検討します。

- クラインガルテンの開設
- 地域おこし協力隊の導入

基本方針3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若者の出会いの場の創出に向けて、若者自ら企画・運営する婚活イベントや交流事業の開催を支援します。また、道が主催する「結婚支援協議会」の場を活用し、情報の受信に努めるとともに、若者世代が日常生活の中で自然に出会う場づくりに取り組みます。

- 出会いの場の創出
- 出産希望をかなえるための経済的支援
- 安心して子どもを産み育てるための医療機関などとの連携促進
- 保育所などの子育て環境の充実
- 教育環境の充実



基本方針4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

誰もが暮らしやすい村づくりをめざし、暮らしの安全、豊かさや潤いの創出に向けた医療・福祉の充実、防災に対する備えや地域コミュニティの創生に取り組みます。

❖ 安心・安全な暮らしを守る地域づくり

村民の健康維持、向上に向けた取り組みや、自主防災組織の活性化を図り、安心・安全な暮らしを守る活動を強化します。

- 予防・健康対策の推進
- 災害対策の強化
- 地域コミュニティの連携強化
- 空き家対策事業

日本の人口は2008(平成20)年をピークに減少に転じ、このまま推移すれば、2060(平成72)年には8,600万人まで減少するという推計もあります。

地方においては、人口減少の速度はさらに速く、50年後には半減以下になる市町村も少なくありません。多くの地方都市は、東京圏との経済格差の拡大等による若い世代の東京圏への一極集中と急速な少子超高齢化の進展によって、人口減少の傾向が顕著です。

人口減少は社会経済全体に影響を及ぼし、国力の大きな衰退につながり、国民生活に大きな影響を与えます。

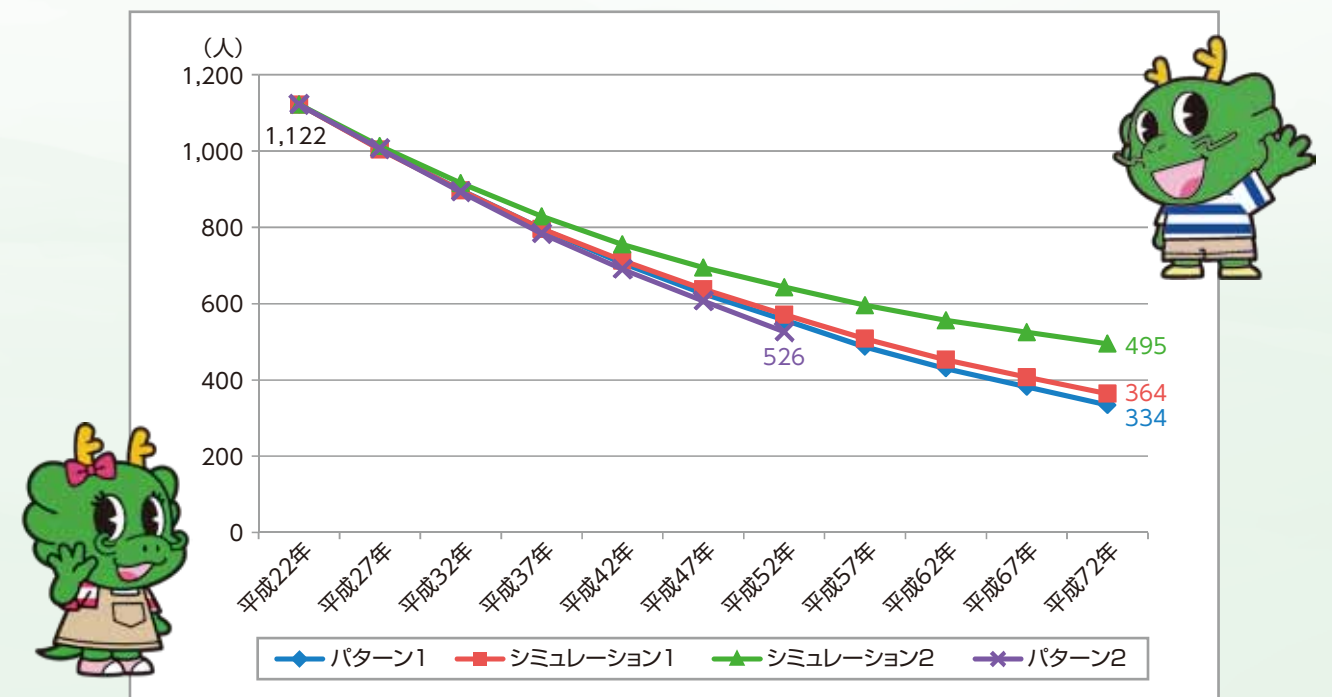
この状況を克服するため、国と地方が一体となって、人口減少に歯止めをかけるための取り組みが「地方創生」です。

本村においても、地方創生を推進するため、今日までのまちづくりの方針を基本に、長期的な「人口ビジョン」とその目標を達成していくための「総合戦略」を策定しました。

神恵内村の人口将来展望

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、道の「人口ビジョン」を踏まえ目標としながら、本村の人口に関する推計分析、目指す取り組みの方向性等を考え、目標とする人口規模を展望しました。

パターン1(社人研推計準拠)	全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計
パターン2(日本創成会議推計準拠)	全国の移動総数が、2010(平成22)年～2015(平成27)年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計
シミュレーション1	パターン1とともに、合計特殊出生率を平成32年に1.5、平成72年までに2.07まで上昇した場合を想定。
シミュレーション2	シミュレーション1+移動率均衡(移動がゼロ)となった場合を想定



戦略の基本的視点

「神恵内村総合戦略」は、地域活力の創生の源となる水産業の活性化への取り組みなどにより、明日の神恵内村を守り育てる若者世代の就業や結婚、出産・子育てなどを支援し、定住促進を図ることで人口減少に歯止めをかけるとともに、地域で安全に安心して暮らせるよう村の創生に向けた戦略を構築するものです。

4つの基本的な視点



1. 安定した雇用を創出する

2. 新しい人の流れをつくる

3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

計画人口：1,000人

客観的な効果検証の実施

効果的な戦略を策定し着実に実施するため、計画(Plan)・実行(Do)・評価(Check)・改善(Action)というPDCAサイクルを確立し、実施した施策・事業の客観的な評価・検証を推進していきます。

基本方針 1

安定した雇用を創出する

本村での移住・定住を促進するためには、地域資源を最大限に活用して、地域産業の振興による安定した雇用・就労の機会を創出することが重要です。また、若者などの流出を止めるため、起業支援などにより若者自身による若者のニーズを満たす働く場の創出に向けた支援に取り組みます。

❖ 神恵内村の地域資源(水産資源など)を最大限活用した事業の創出

- つくり育てる漁業の推進
- 水産物のブランド化と6次産業化の推進
- 新規就農者支援事業の推進
- 後継者育成事業の推進
- 地域おこし協力隊の導入

※都市住民など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の維持・強化を図る活動です。

❖ 若者の働く場の創出

「神恵内村を元気にしたい」と、村内の若者有志が『神恵内村魅力創造研究会』を創設し、様々な活動を展開しています。当研究会が発信するフェイスブックの記事は、近年大きな関心を集めており、村内外からのアクセス数が増加しています。

神恵内村魅力創造研究会や関係機関などの協働を強化し、若者世代の起業を支援します。

- 女性・若者の起業支援



基本方針 2

新しい人の流れをつくる

本村の魅力の一つでもある、恵まれた自然環境を生かした新しい観光資源の開発などによる観光産業の充実と強化を図るとともに、移住・定住の推進に向けた支援体制を整備することで、交流人口や定住人口の拡大を図ります。

また、地域おこし協力隊の導入や域学連携による新しい人の流れの構築に取り組みます。

❖ 移住・定住に向けた住まいの確保

本村には、移住を希望される方がいてもすぐに入居できる住宅が少ない一方で、リフォームにより入居可能な空き家などがあることから、新たな住まいの確保に向けた空き家などの有効活用、提供方法の構築に取り組みます。

- 移住・定住促進アドバイザーの導入
- 地域おこし協力隊の導入
- 空き家・空き施設などの活用
- 空き家、空き施設などのデータ化



❖ 観光資源の開発と環境整備

地域おこし協力隊や域学連携による外から見た視点で村の魅力を再発見し、体験型プログラムの開発や観光コースの設定など、本村へのリピート率の向上につなげます。

- 体験交流型と観光コースの開発
- 観光資源の再整備と付加価値の創出
- 外国人観光客の誘致推進
- 地域おこし協力隊の導入